

## 令和3年度卒業証書授与式 式辞

甲山を臨む本校に降り注ぐ日差しが日に日に暖かくなり、春の訪れを予感する今日の佳き日、兵庫県立西宮甲山高等学校 第三十七回卒業証書授与式を挙げていただけますことは誠に大きな喜びでございます。

本日、PTA会長様をはじめ、多数の保護者の皆様のご臨席を賜り本校の教職員を代表して厚く御礼申し上げます。そして、ご列席していただきました保護者の皆様におかれましては、お子様のご卒業を心からお祝い申し上げます。なお、新型コロナウイルス感染症対策のためとはいえ、来賓の方々をご招待せず、一部の保護者の皆様には別会場でリモートでのご列席となってしまったことに対して深くお詫び申し上げます。

さて、ただ今、蛍雪の功成って、本校の卒業証書を授与しました182名の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの在学中の努力と精進に対して心から賛辞をおくります。今、皆さんの脳裏には、甲高での高校生活が走馬燈のようによみがえっていることでしょうか。皆さんの高校生活3年間のうち2年間は、コロナ禍の影響で、制約の多いことだったと思います。そんな中でも、勉強、学校行事、生徒会活動、部活動等、いろいろなことに取り組んできました。悩んだり、つらかったり、喜んだり、そして笑ったり、いろいろなことがあったことと思います。とりわけ、悩んだり、つらかったりしたことを克服して、今日のこの日を迎えられることに、心から祝福の拍手を送ります。ただ、家族や友人、その他多くの人々の温かい励ましと支援があって、この日を迎えられることを決して忘れないでください。

皆さんが卒業する2022年3月、世の中はいまだ収まらぬ新型コロナウイルス禍があり、ウクライナではロシア軍の侵攻が起これ、この先どうなるか世界の多くの人々が不安を感じています。そんなこの時代、そしてこれからの時代を担う皆さんに次の2人のお話をしたいと思います。

まず、「クリミアの天使」と言われた看護師であり、科学者、数学者としても様々な分野で活躍したフローレンス・ナイチンゲールの話です。もう1人は、ロシアの小説家、思想家であるレフ・トルストイの話です。この2人は今から約170年前の1853年に勃発したクリミア戦争の場にいました。クリミア戦争とは世界史を選択した人なら学習したはずですが、ロシアと今のトルコあたりにあったオスマン帝国との戦争です。オスマン帝国の弱体化や、ロシアの南下政策などいくつかの要因で戦争が起きました。クリミア半島が主な戦場になり、両軍合わせて20万人の戦死者が出たといわれる3年間に及ぶ戦争です。オスマン帝国側にはイギリスやフランスなどが味方しました。クリミア半島はウクライナの南にある黒海に突き出した半島です。ちょうど今のロシアとウクライナの問題と同じ場所でよく似た状況です。

その戦争の中、イギリス人のナイチンゲールは看護師として従軍し、多くの傷病兵を助けました。当時、看護師は社会的身分の低い仕事とされていました。実際に裕福な家庭で生まれ育ったナイチンゲールは、母親から看護師になることを反対されています。単なる病人の

召使のように扱われていた看護師を専門的な知識の必要な職業に引き上げたのが彼女の大きな功績の一つです。また、ナイチンゲールは統計学にも通じており、統計を駆使して死亡原因などを分析し、今では当たり前のレーダーチャートを使うなどして議会を説得し、病院の改革なども行いました。ナースコールやナースステーションも彼女の業績です。そんな彼女が残した言葉の一つに、「物事を始めるチャンスを、私は逃さない。たとえマスタードの種のように小さな始まりでも、芽を出し、根を張ることがいくらでもある。」があります。彼女の人生でいくつもそんな場面があったことでしょう。皆さんも、この先いくらでもチャンスがあるはずですよ。ぜひ小さなチャンスも見逃さないようにしてください。きっとその先にいいことが待っていると思います。

トルストイは、クリミア戦争にロシア軍の将校として参加し、若くして多くの生と死に向き合うことになり、その後の人生に大きな影響を受けました。戦争のあと彼は農奴という農民の奴隷解放を試みたり、貧しい農民のための学校を作ったりしました。彼が戦争で見た悲惨な光景、体験が彼に「戦争と平和」や「イワンのばか」など、戦争の愚かさを物語にさせました。「イワンのばか」は童話として皆さんも幼い頃に読んだり聞いたりしたことがあるのではないのでしょうか。

「人生には唯ひとつだけ疑いのない幸福がある。それは、人のために生きることである。」これが彼のことばです。

彼は貧しい人々に目を向け、どうしたら皆が幸せに暮らせるかを考え続けた人です。だからこそ、様々な成功が彼にもたらされたのだと思います。

自分のことを大切にして自分のために生きるとはもちろん大事なことです。でも、それだけでは幸せにはなれないのだと思います。身近な人であれ、見知らぬ人であれ、人のために生きることをしなければ、真の幸福は来ないということをトルストイは言っていると思います。

コロナ禍で医療関係の方々がたくさん苦勞の中で頑張ってくださいています。看護師が「白衣の天使」と呼ばれるようになったのはナイチンゲールが始まりといわれています。トルストイが言ったように、今多くの方が「人のために生きている」と思います。

37 回生の皆さんはこれからの社会を担っていく人たちです。この甲高でその基礎になる力をすでに身につけていると思います。皆さんのこの先の活躍に期待しています。小さなチャンスも見逃さず、人のために生きることで、それぞれの人がそれぞれの幸せをつかんでほしいと思います。

あらためて 37 回生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの輝かしい前途を祈念して、式辞といたします。

令和 4 年 3 月 2 日  
兵庫県立西宮甲山高等学校  
校長 早川 千也